

## 今後10年間の情報収集衛星のビジョン

平成26年7月18日  
内閣衛星情報センター

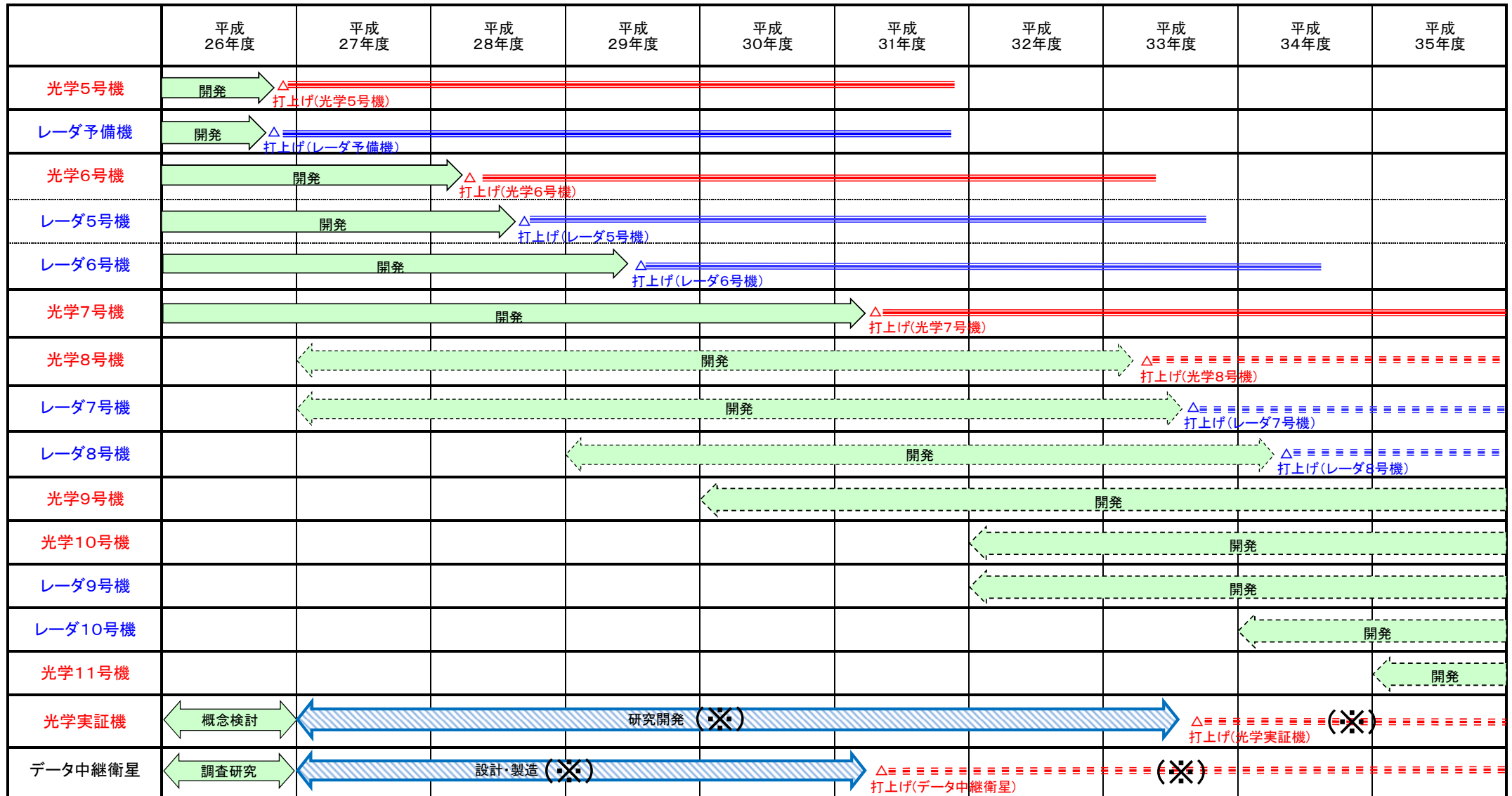
- ・ 外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への対応等の危機管理のために必要な情報の収集を主な目的とした情報収集衛星については、宇宙基本計画に基づき、当初の目標である、光学衛星とレーダ衛星それぞれで特定地点を1日1回以上撮像する上で必要な光学衛星2機、レーダ衛星2機の4機体制を確実なものとするため、衛星の設計寿命（5年）、衛星の開発に要する期間（約7年）等を踏まえ、計画的に順次開発を行う予定です。
- ・ このような考え方で開発を行うとした場合には、以下の衛星について以下の時期に開発着手が実施される見通しです。
  - 光学8号機（平成33年度打上げ見込み）：平成27年度開発着手見込み
  - レーダ7号機（平成33年度打上げ見込み）：平成27年度開発着手見込み
  - レーダ8号機（平成34年度打上げ見込み）：平成29年度開発着手見込み
  - 光学9号機（平成36年度打上げ見込み）：平成30年度開発着手見込み
  - 光学10号機（平成38年度打上げ見込み）：平成32年度開発着手見込み
  - レーダ9号機（平成38年度打上げ見込み）：平成32年度開発着手見込み
  - レーダ10号機（平成39年度打上げ見込み）：平成34年度開発着手見込み
  - 光学11号機（平成41年度打上げ見込み）：平成35年度開発着手見込み
- ・ また、宇宙基本計画に基づき、より高い撮影頻度とすることによる「情報の量の増加」、商業衛星を凌駕する解像度とすること等による「情報の質の向上」、増大するデータの受送信を迅速に行うこと等による「即時性の向上」等により、情報収集衛星の機能の強化を図る方針です。
- ・ 特に、一層厳しさを増す安全保障環境等を踏まえ、平成26年度に、「即時性の向上」等のためのデータ中継衛星の導入に係る調査研究を実施し、平成27年度概算要求にその導入に必要な費用を計上することを検討中です。
- ・ 情報収集衛星のこのような研究・開発は、以下の観点から、国内宇宙産業の基盤維持・強化及び産業競争力の強化に資する見込みです。
  - 高付加価値、高信頼性を持つ衛星システムの継続的開発による技術者の育成、

#### 設備稼働率の維持等

- 重要技術の先行研究開発の拡充・強化による国内宇宙産業の技術力向上
  - 安全保障に支障が無い技術情報等の民間移転による国産衛星の性能や信頼性の向上、開発費の低廉化等
- ・ なお、平成26年6月13日の自民党宇宙総合戦略小委員会において提示された「宇宙総合戦略における基本的な考え方（案）」において、「情報収集衛星10機体制の確立」とあり、また、これまでの運用によって判明してきた撮像頻度の制約等の課題も踏まえ、現下の増大する安全保障等のニーズを満たすという観点から、情報収集衛星群（コンステレーション）の能力強化について検討します。

以上

# 情報収集衛星システムの構想



注)平成26年4月時点での構想であり、平成27年度以降については、衛星の設計寿命(5年)、衛星の開発に要する期間(約7年)等を踏まえ、計画的に順次開発を行う前提での見通しを記載したもの。

※データ中継衛星・光学実証機の導入時期、開発に必要な期間、費用等については、検討中。

※※今後、情報収集衛星群(コンステレーション)の能力強化を検討。